
第2次茅野市地域創生総合戦略

令和2年〇月

長野県 茅野市

目 次

1	基本的な考え方	- 1 -
	第2次茅野市地域創生総合戦略が目指すまちの姿	- 1 -
	なぜ『若者に「選ばれるまち」を目指すのか.....	- 1 -
	「総合戦略」の位置づけ.....	- 2 -
	「総合戦略」の構成.....	- 2 -
	「総合戦略」の計画期間.....	- 2 -
2	施策展開.....	- 3 -
	テーマ.....	- 3 -
	基本コンセプト.....	- 5 -
	施策体系.....	- 5 -
	横断的施策.....	- 13 -
3	具体的施策.....	- 15 -
	基本目標1 知り、訪れたいまちをつくる.....	- 15 -
	基本目標2 通いたくなるまちをつくる.....	- 19 -
	基本目標3 移り住みたい、住み続けたいまちをつくる.....	- 23 -
	基本目標4 安心して出産・子育てができるまちをつくる.....	- 27 -
	基本目標5 暮らしやすいまちをつくる.....	- 31 -

資料編

茅野市人口ビジョン

1 基本的な考え方

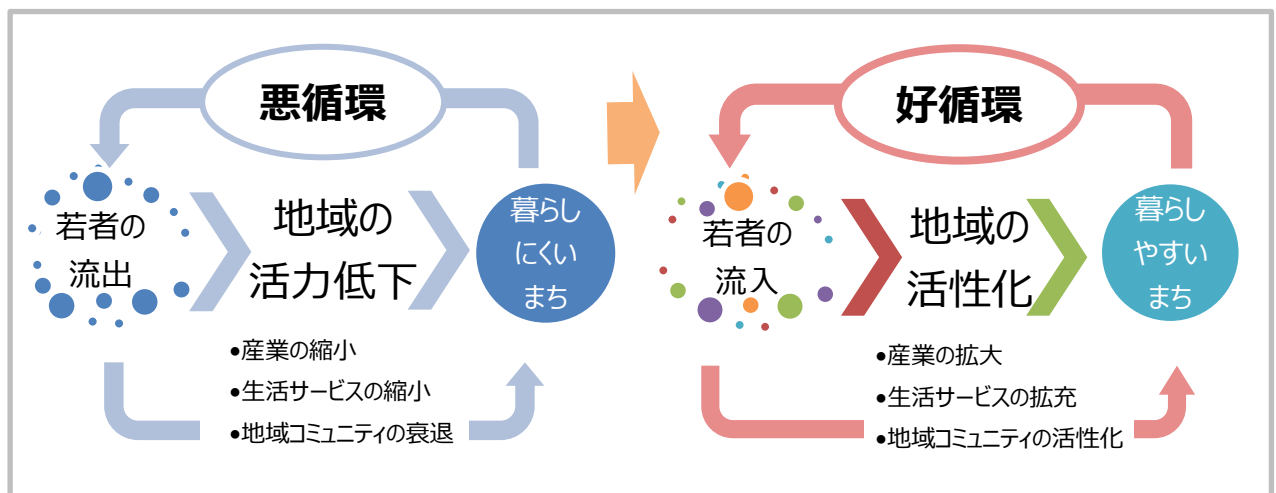
第2次茅野市地域創生総合戦略が目指すまちの姿

- 人口減少や、大都市への流出による「若者」の減少は、産業の縮小や、生活サービスの縮小、地域コミュニティの担い手不足などをもち、まち全体の活力が低下する大きな原因となっています。
- 魅力ある仕事づくりや、子育てのしやすい環境づくり、便利で安全なまちづくりなど、移住・定住を促す環境をつくることで、茅野市が将来にわたって持続可能なまちであるため

若者に「選ばれるまち」 の実現を目指します。

なぜ『若者に「選ばれるまち」』を目指すのか

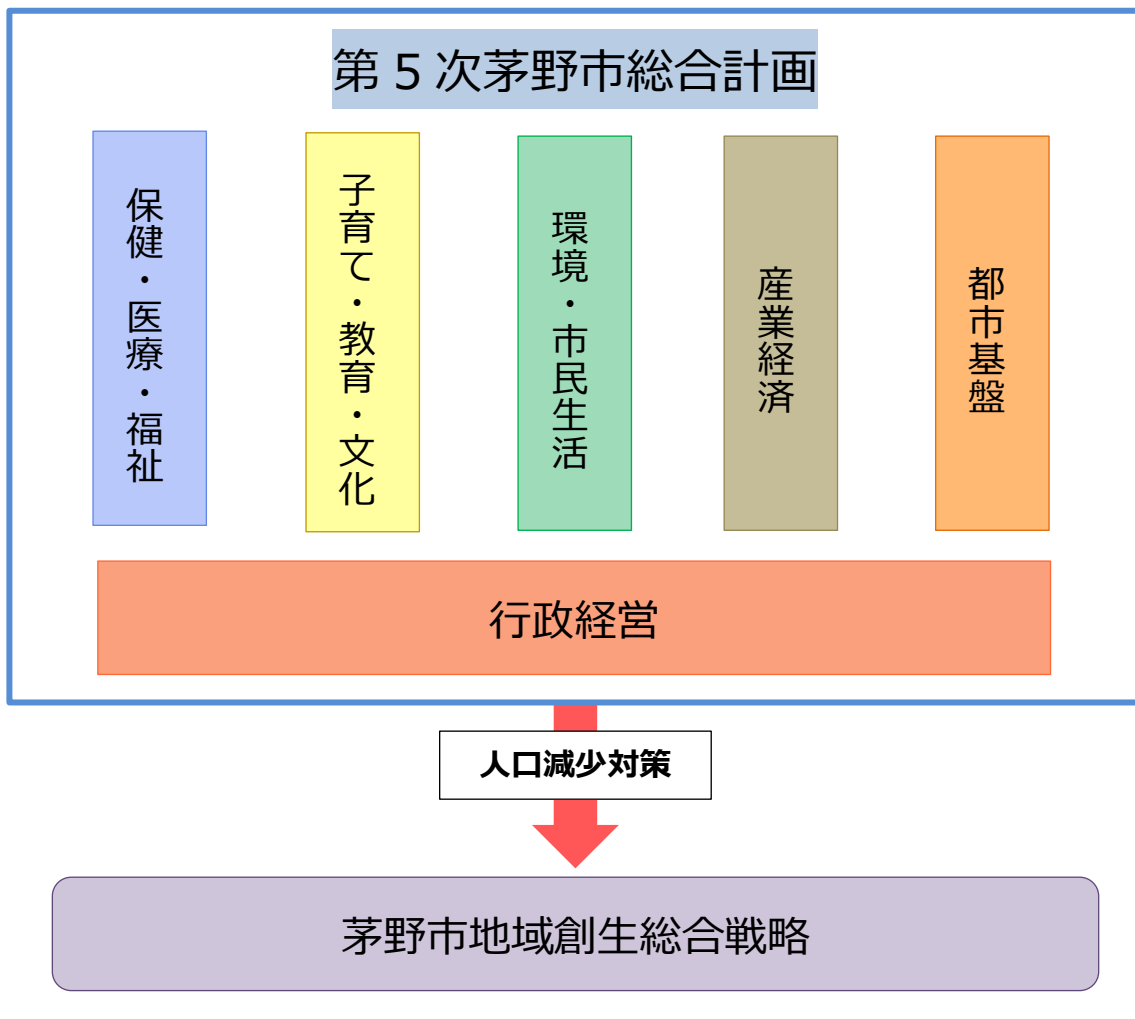
- 若者がいなくなると、企業の人手不足や、スーパーやコンビニエンスストア、チェーン店が撤退するほか、バスや鉄道、タクシーなどの公共交通を始めとする生活サービスが縮小し、生活が不便になります。
- 一方、地域のコミュニティでは、消防団や公民館役員、保健指導員のなり手が不足し、住民の負担も増えていくこととなります。
- 生活が不便で、住民の負担も多い、暮らしにくいまちになると、より暮らしやすいまちを求めて、若者はますます都市部等へ流出してしまいます。
- 若者に「選ばれるまち」には、若者が流入し、経済が活性化し、生活サービスが充実し、住民の負担も減ることで、結果的に子どもからお年寄りまで市民も暮らしやすいまちになります。



「総合戦略」の位置づけ

本市の最上位計画である「第5次茅野市総合計画」を基本に、人口減少の克服に特化した、政策横断プロジェクトとして策定します。

第5次総合計画から見た茅野市総合戦略の位置づけのイメージ



「総合戦略」の構成

「茅野市総合戦略」と「茅野市人口ビジョン」により構成されています。

「総合戦略」の計画期間

計画期間は、令和2年度（2020年度）から令和6年度（2024年度）までとします。

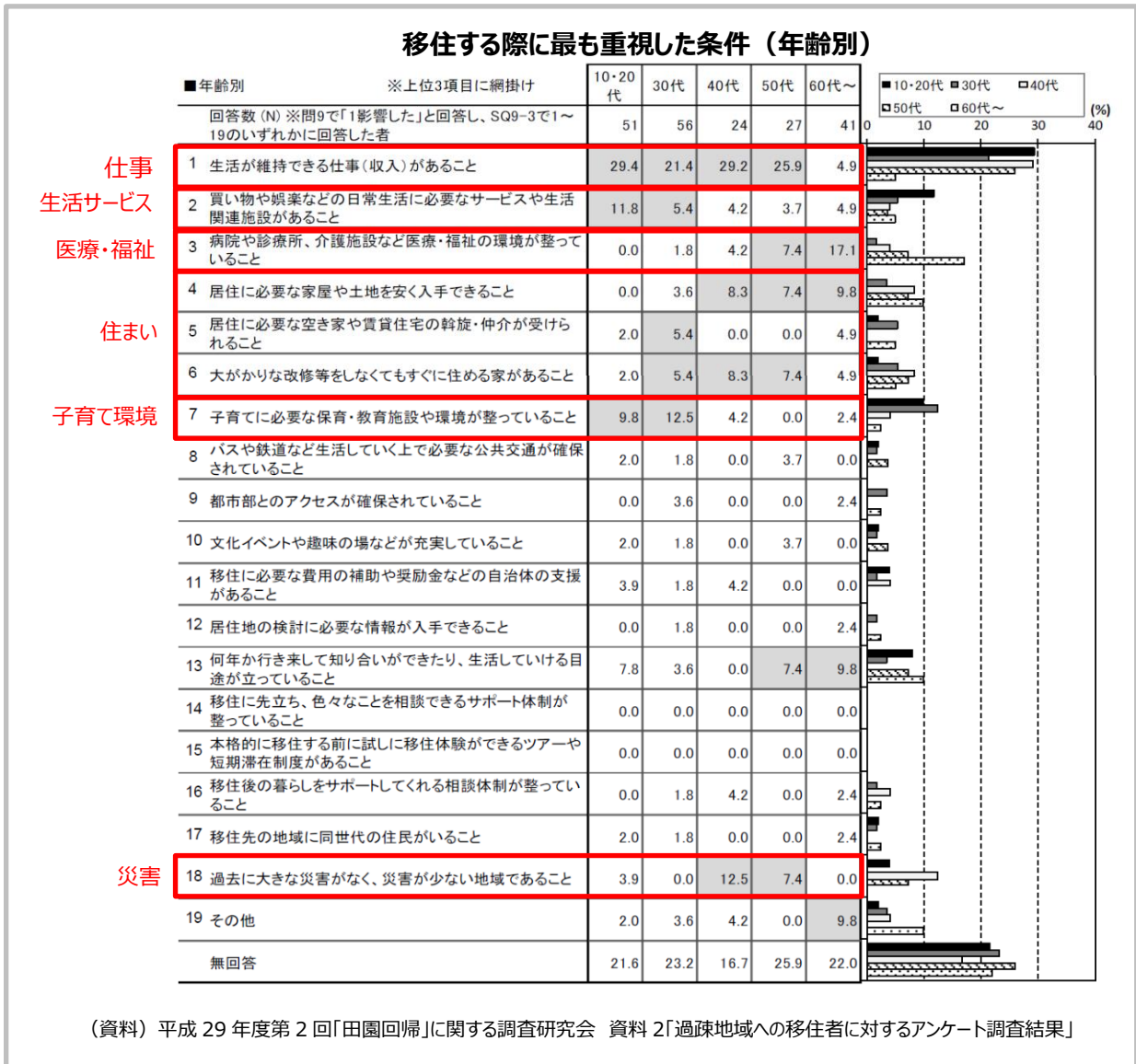
2 施策展開

テーマ

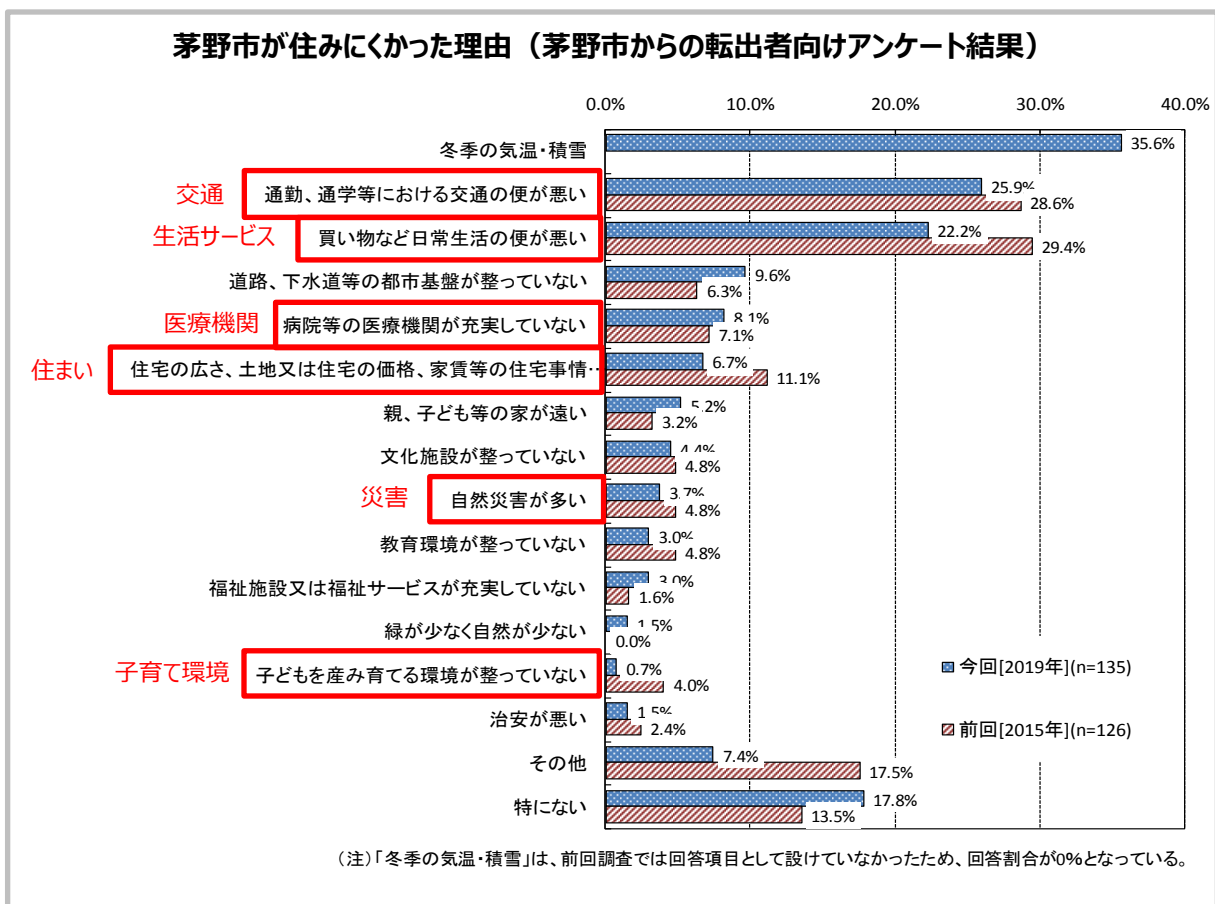
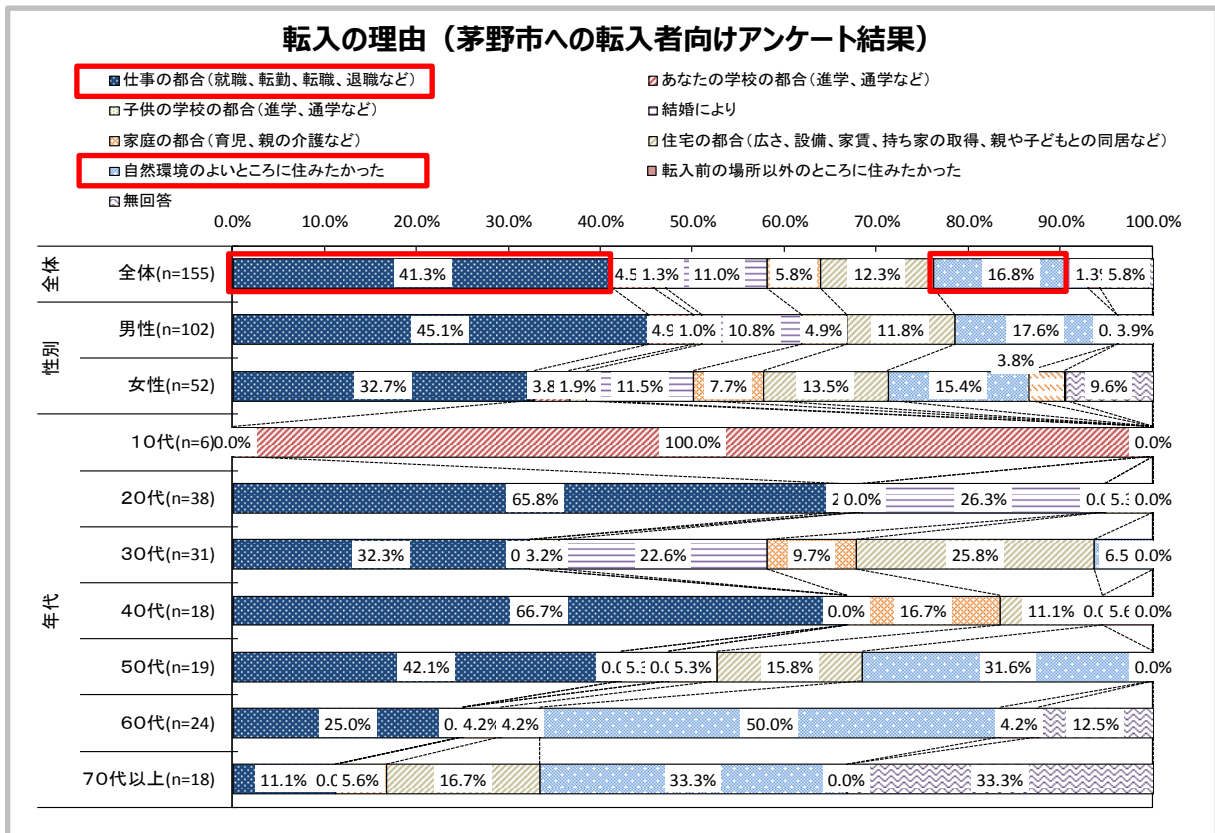
若者に「選ばれるまち」の実現

現状把握

移住者が地方に移住するにあたっては、生活を維持するための**仕事**や居住に必要な**住まい**があることが重視されています。さらに、仕事や住まいに加えて、10・20代、30代では、**子育て環境**、**生活サービスの充実**が、40代、50代では、**医療・福祉環境の充実**や、**災害の少なさ**が重視されています。



一方で、茅野市への転入は、仕事の都合や、茅野市の自然環境に魅力を感じたことが理由であることがうかがえます。また、転出者からは、子育て環境の充実や災害の少なさが評価されているものの、交通の便の悪さや、生活サービス、医療機関、住まいに不満を感じていることがうかがえます。



基本コンセプト

若者が茅野市に流入することで、経済が活性化し、生活サービスが充実し、住民の負担が減り、結果的に子どもたちからお年寄りまで、**全ての茅野市民が暮らしやすいまちとなる**ことを目指し、**若者に「選ばれるまち」を実現**するための施策を展開します。

○上記の内容を踏まえ、以下のとおり施策を展開します。

- ・生活を維持するための**仕事**や居住に必要な**住まい**の充実を図ります。
- ・**生活サービス**、**医療機関**の充実を図ります。
- ・**子育て環境**、**防災対策**の更なる充実を図ります。
- ・茅野市の持つ**自然環境**の維持を図ります。

○施策の展開にあたっては、以下のことを意識します。

- ・**茅野市を知り訪れ**、**茅野市に通い**、**茅野市に移り住む**、**人の流れを意識**します。
- ・持続可能なまちづくりの実現に向けて、**SDGs**を意識します。

施策体系

テーマ、基本コンセプトを踏まえ、以下の基本目標及び横断的施策を設定します。

○基本目標

- | | |
|--------|----------------------|
| 基本目標 1 | 知り、訪れたいまちをつくる |
| 基本目標 2 | 通いたいまちをつくる |
| 基本目標 3 | 移り住みたい、住み続けたいまちをつくる |
| 基本目標 4 | 安心して出産・子育てができるまちをつくる |
| 基本目標 5 | 暮らしやすいまちをつくる |

○横断的施策

- (1) 茅野版 DMO 支援による新たな交流の創造
- (2) コワーキングスペース活用による新たな雇用の創出
- (3) 産学公連携「スワリカブランド」推進による新たな産業の創出
- (4) 多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造
- (5) JR 茅野駅西口リニューアルによる人の流れの創造
- (6) AI・IoT 技術活用による暮らしやすいまちの構築

若者に「選ばれるまち」となるための施策体系図は、次のとおりです。

若者に「選ばれるまち」の実現

- 数値目標（令和 6 年） 生産年齢人口比率：55.8%

基本目標 1 知り、訪れたいまちをつくる

- 数値目標（令和 6 年） 市内観光地延利用者数：3,367,000 人

シティプロモーションの展開、観光地域づくり

基本目標 2 通いたくなるまちをつくる

- 数値目標（令和 6 年） 「将来は茅野市で暮らしたい」と思う 15 歳～18 歳の割合：80%

新たなワークスタイルの場の提供、別荘地の環境整備、郷土愛醸成

基本目標 3 移り住みたい、住み続けたいまちをつくる

- 数値目標（令和 6 年） 社会増減（転入者数－転出者数）：▲548 人

移住施策・住まいの支援、魅力ある仕事づくり

基本目標 4 安心して出産・子育てができるまちをつくる

- 数値目標（令和 6 年） 合計特殊出生率：1.64

若い世代の結婚・出産・子育て支援

基本目標 5 暮らしやすいまちをつくる

- 数値目標（令和 6 年） 茅野市の行政サービスの満足度：50%

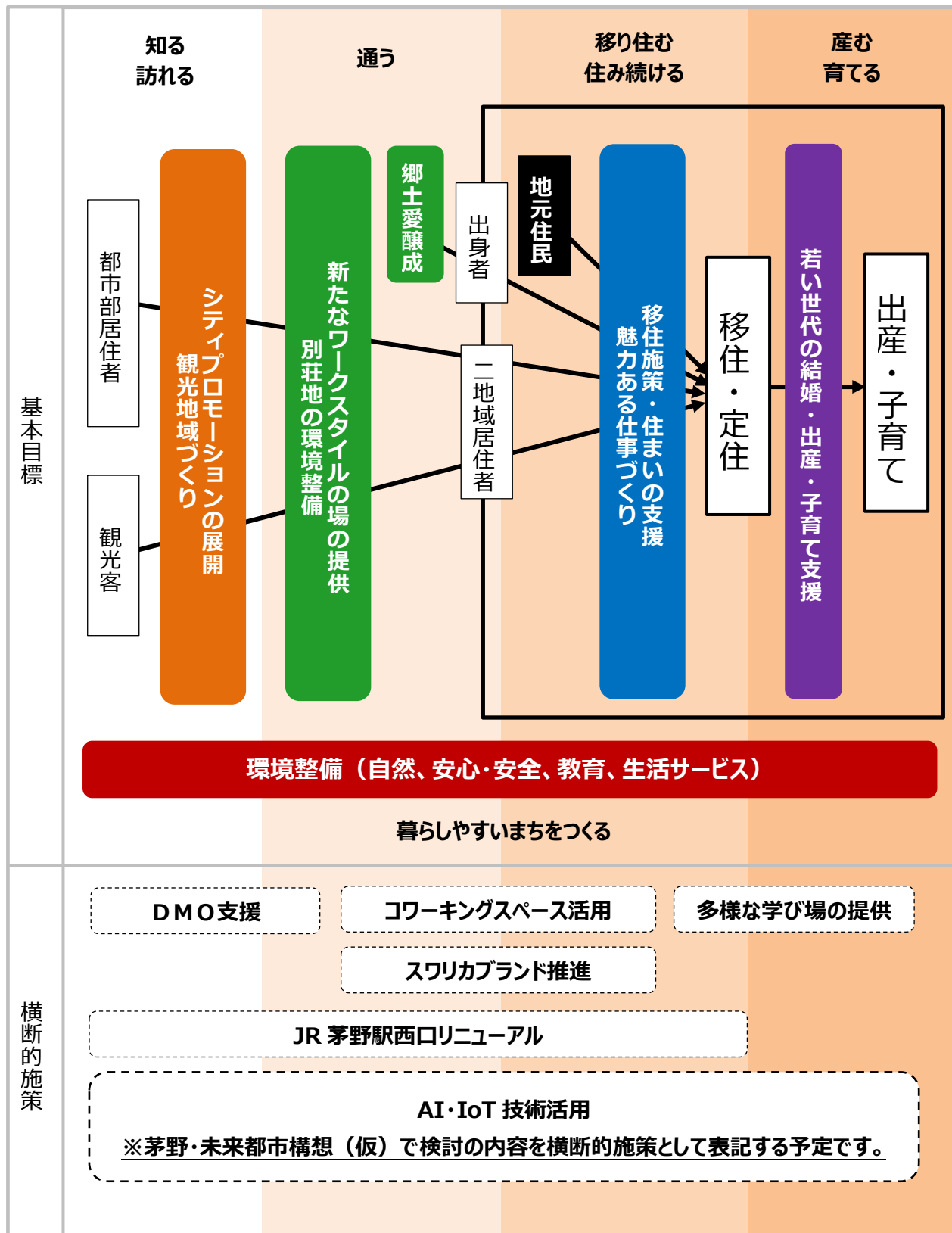
環境整備（自然、安心・安全、教育、生活サービス）

横断的施策

- (1) 茅野版 DMO 支援による新たな交流の創造
- (2) コワーキングスペース活用による新たな雇用の創出
- (3) 産学公連携「スワリカブランド」推進による新たな産業の創出
- (4) 社会に対応できる多様な学び場の構築
- (5) JR 茅野駅西口リニューアルによる人の流れの創造
- (6) AI・IoT 技術活用による暮らしやすいまちの構築

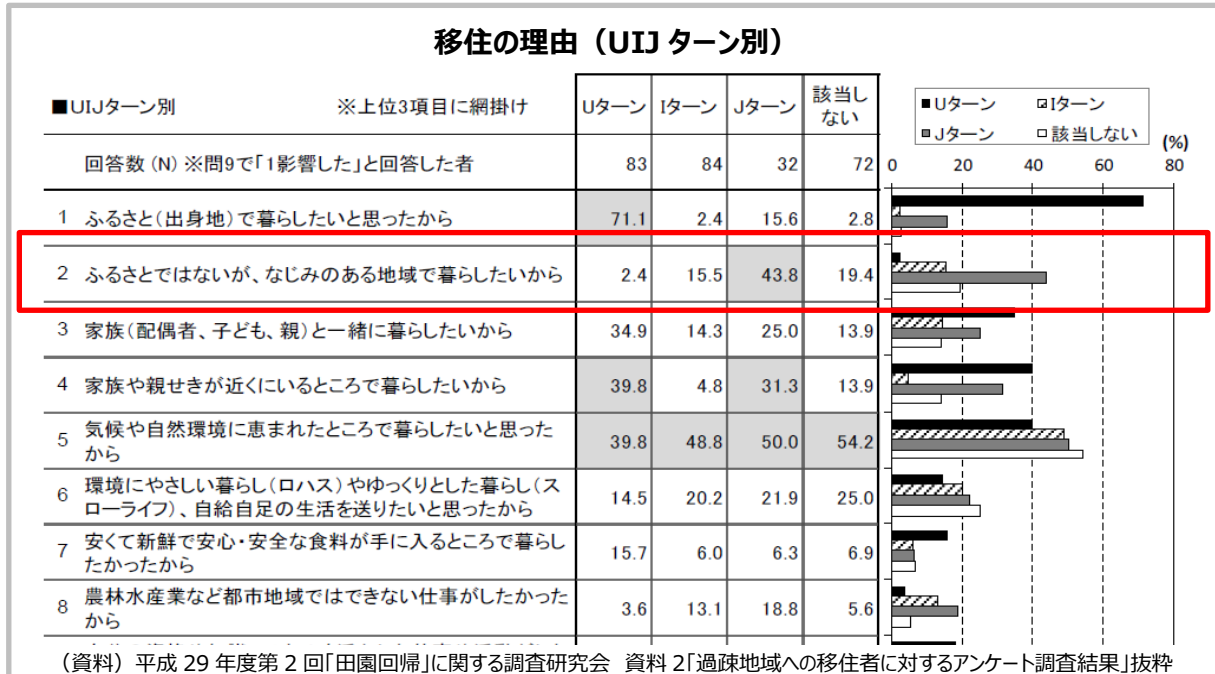
若者に「選ばれるまち」の実現に向けたフロー

← 社会増減対策 → ← 自然増減対策 →



基本目標 1 知り、訪れたいくなるまちをつくる

- 茅野市の出身ではない若者に移住をしてもらうためには、まず茅野市になじみをもってもらうことが必要です。
- 若者が茅野市を知り、訪れてもらうために、HP・SNS を活用したシティプロモーションの展開等による首都圏への情報発信を行うとともに、訪れたいくなる魅力ある観光地域づくりを行い、認知度の向上と観光客の来訪を目指します。



数値目標

■ 市内観光地延利用者数
目標 (令和 6 年) : 3,367,000 人

- 主な重要業績評価指 (KPI)
- 茅野市公式観光情報サイトアクセス数
 - 尖石縄文考古館来館者数
 - 市内観光消費額

■ 施策パッケージ

茅野市の認知向上に向けた情報発信

- ・シティプロモーションの展開による茅野市の魅力発信事業
- ・茅野市公式観光 HP・SNS 運用による情報発信事業
- ・縄文を活用した P R 事業
- ・縄文ふるさと応援団事業
- ・縄文ふるさと大使事業
- ・フィルムコミッション推進事業
- ・海外プロモーション事業
- ・メディア・旅行会社招聘事業

茅野市への来訪に向けた誘客促進

- ・地域資源を活かした旅行商品、拠点整備事業
- ・縄文ガイドブック・ツアー事業
- ・小津安二郎記念・蓼科高原映画祭支援事業
- ・学習協サマーキャンプ・スノーキャンプ実施事業
- ・諏訪地方観光連盟との連携事業
- ・ビーナスライン沿線市町との連携事業
- ・白樺湖活性化協議会との連携事業

◆ 横断的施策

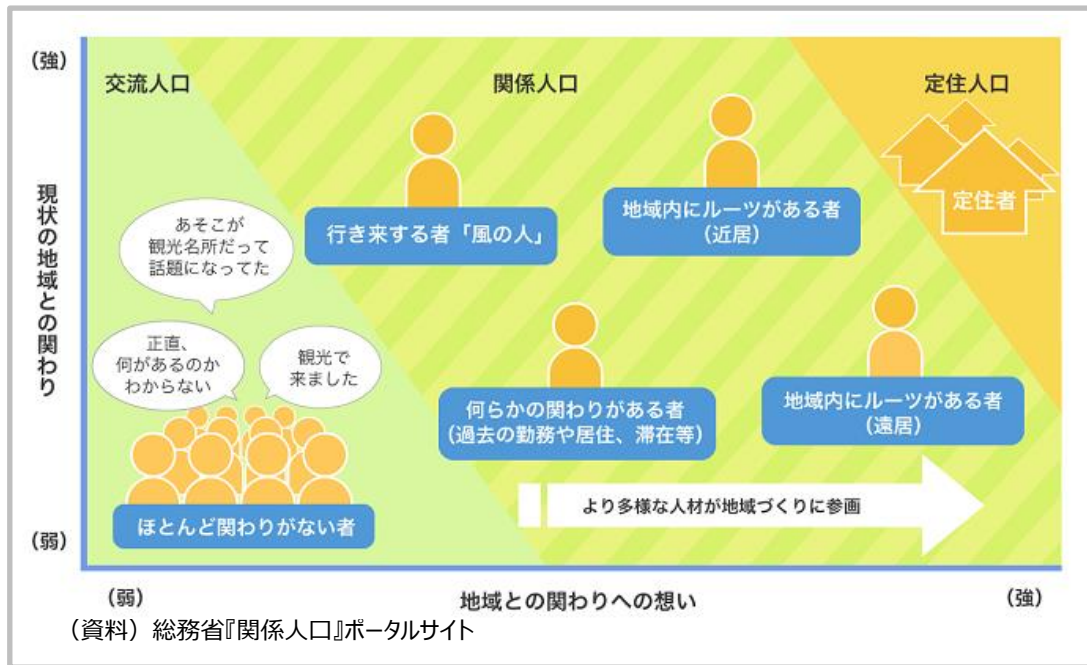
- ・茅野版 DMO 支援による新たな交流の創造
- ・JR 茅野駅西口リニューアルによる人の流れの創造
- ・AI・IoT 技術活用による暮らしやすいまちの構築

観光の活性化に向けた環境の整備

- ・蓼科湖周辺整備事業
- ・御射鹿池周辺整備事業
- ・史跡整備事業
- ・観光地廃ホテル等対策事業
- ・観光地二次交通対策事業

基本目標 2 通いたくなるまちをつくる

- 地域に関わりたいという想いが強くなり、地域との関わりが深くなることで移住・定住につながります。
- 新たな働く場の提供や、別荘地の環境整備により、観光に来た「交流人口」以上、移住した「定住人口」未満である「関係人口」を増やします。
- また、茅野市の出身者に対しても、いずれ茅野市に戻って来ることができるよう働きかけを行います。



数値目標

- 「将来は茅野市で暮らしたい」と思う 15 歳～18 歳の割合
目標 (令和 6 年) : 80%

主な重要業績評価指 (KPI) ●コワーキングスペース売上額 ●別荘地の水道使用量
●公立諏訪東京理科大学卒業生の市内創業・就業者数

■ 施策パッケージ

茅野市とのつながりを創出する交流拠点の整備

- ・地域資源を活かした旅行商品、拠点整備事業
- ・コワーキングスペース活用事業

別荘地の利用促進に向けた環境整備

- ・蓼科湖周辺下水道整備事業
- ・別荘開発事業者等との連携推進事業

地域への愛着や誇りの醸成

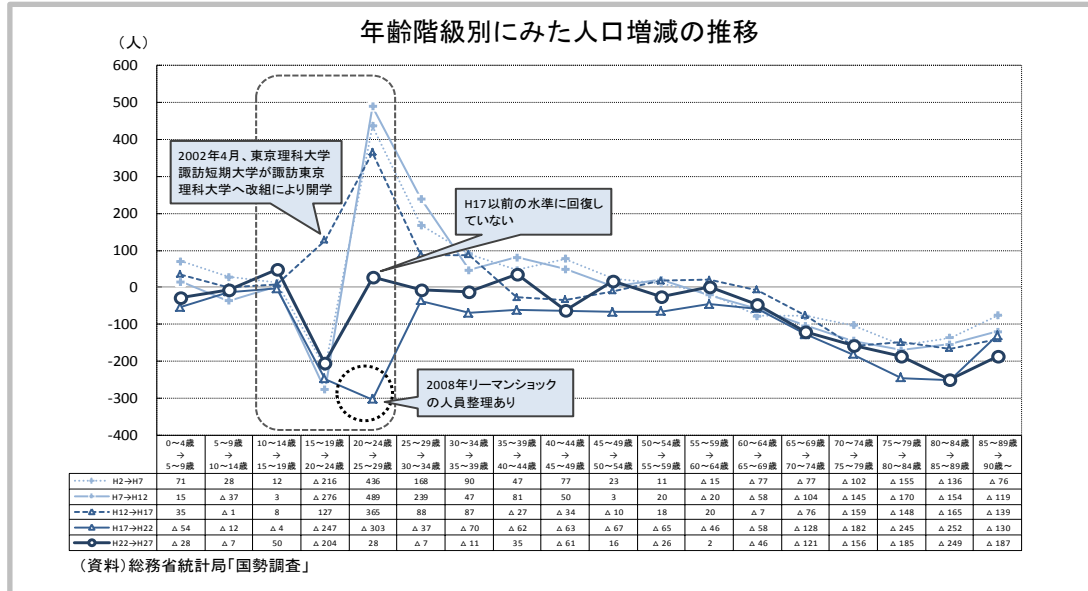
- ・こども未来プロジェクト推進事業
- ・CHUKO らんど子ノチノ運営事業
- ・生きる力を育む特色ある学校づくり事業
- ・インターンシップ等促進事業
- ・産学公連携「スワリカブランド」創造事業

◆ 横断的施策

- ・コワーキングスペース活用による新たな雇用の創出
- ・産学公連携「スワリカブランド」推進による新たな産業の創出
- ・JR 茅野駅西口リニューアルによる人の流れの創造
- ・多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造

基本目標3 移り住みたい、住み続けたいまちをつくる

- 男女ともに、10代後半～20代は人口が減少する傾向にあります。これは、進学や就職等が理由と考えられます。
- 魅力ある雇用をつくることで、市外からも若者を呼び込むとともに、若者が茅野市に住み続けるよう促します。
- 一方で、住まいの支援等を行うことで、移住を検討している人が移住しやすくなる取組も併せて行います。



数値目標

- 社会増減数（転入者数－転出者数）
目標（令和6年）：▲548人

主な重要業績評価指（KPI）

- 新規創業者数 ●市内事業所就業者数
- 楽園信州ちの協議会を通じた移住・定住件数

■ 施策パッケージ

魅力ある雇用・産業の創出

- ・中小企業振興補助制度事業
- ・新技術・新製品研究開発支援事業
- ・新商品開発支援事業
- ・コワーキングスペース活用事業
- ・創業スクール事業
- ・空き店舗等活用事業
- ・茅野・産業振興プラザ支援事業
- ・産学公連携「スワリカブランド」創造事業
- ・モノづくり集積地 SUWA のヒトづくりプロジェクト
- ・NPO 諏訪圏ものづくり推進機構支援事業

就労支援と労働環境の整備

- ・就業・創業移住支援事業
- ・雇用促進事業
- ・インターンシップ等促進事業
- ・就農者支援事業
- ・農作物目別アドバイザー制度推進事業
- ・製造業等労務環境改善等設備促進事業
- ・ファミリー・サポート・センター事業
- ・保育所運営事業
- ・学童クラブ運営事業

移住・定住情報の発信や住まいの支援

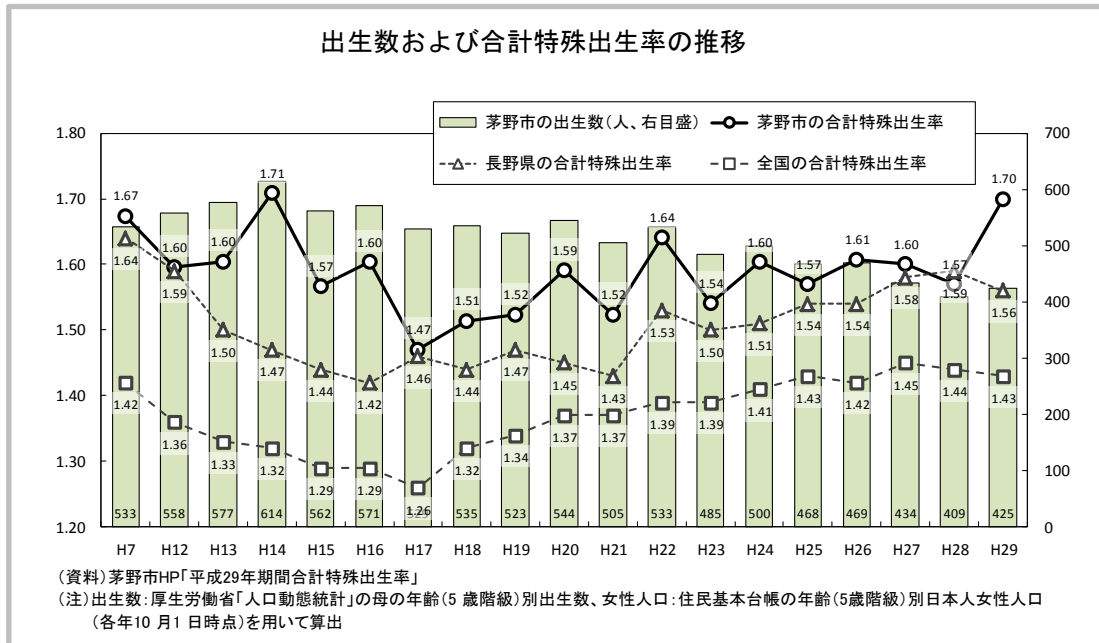
- ・楽園信州ちの協議会の活動支援を通じた情報発信事業
- ・諏訪圏移住相談センター支援事業
- ・田舎暮らし楽園信州ちの協議会ツアー事業
- ・田舎暮らし楽園信州ちの協議会移住体験住宅事業
- ・サンコーボラス旭ヶ丘の同居促進・活用事業
- ・住宅団地販売促進事業
- ・住宅リフォーム促進事業

◆ 横断的施策

- ・コワーキングスペース活用による新たな雇用の創出
- ・産学公連携「スワリカブランド」推進による新たな産業の創出
- ・多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造
- ・JR 茅野駅西口リニューアルによる人の流れの創造

基本目標 4 安心して出産・子育てができるまちをつくる

- 茅野市の合計特殊出生率は、全国平均や長野県よりも高い傾向にあります。
- 気軽に相談ができる体制の整備や、経済的な支援等により、妊娠、出産、子育てに係る様々なハードルを下げ、より子育てのしやすいまちとなるよう支援を行います。



数値目標

■ 合計特殊出生率
 目標(令和6年): 1.64

- 主な重要業績評価指(KPI)
- 人口千人当たりの婚姻件数
 - 相談解決の割合
 - 人口千人当たりの出生人数

■ 施策パッケージ

結婚・妊娠・出産の切れ目ない支援

- ・出会いの創出事業
- ・不妊及び不育症治療助成事業
- ・パパママ講座・赤ちゃん相談事業
- ・マタニティ相談事業
- ・妊婦一般健康診査事業
- ・産婦健康診査事業
- ・産後ケア事業

子育て世帯への経済的支援

- ・多子世帯保育料軽減事業
- ・私立幼稚園支援事業
- ・遠距離通学児童・生徒通学支援事業
- ・教育資金利子補給事業
- ・医療費助成事業

◆ 横断的施策

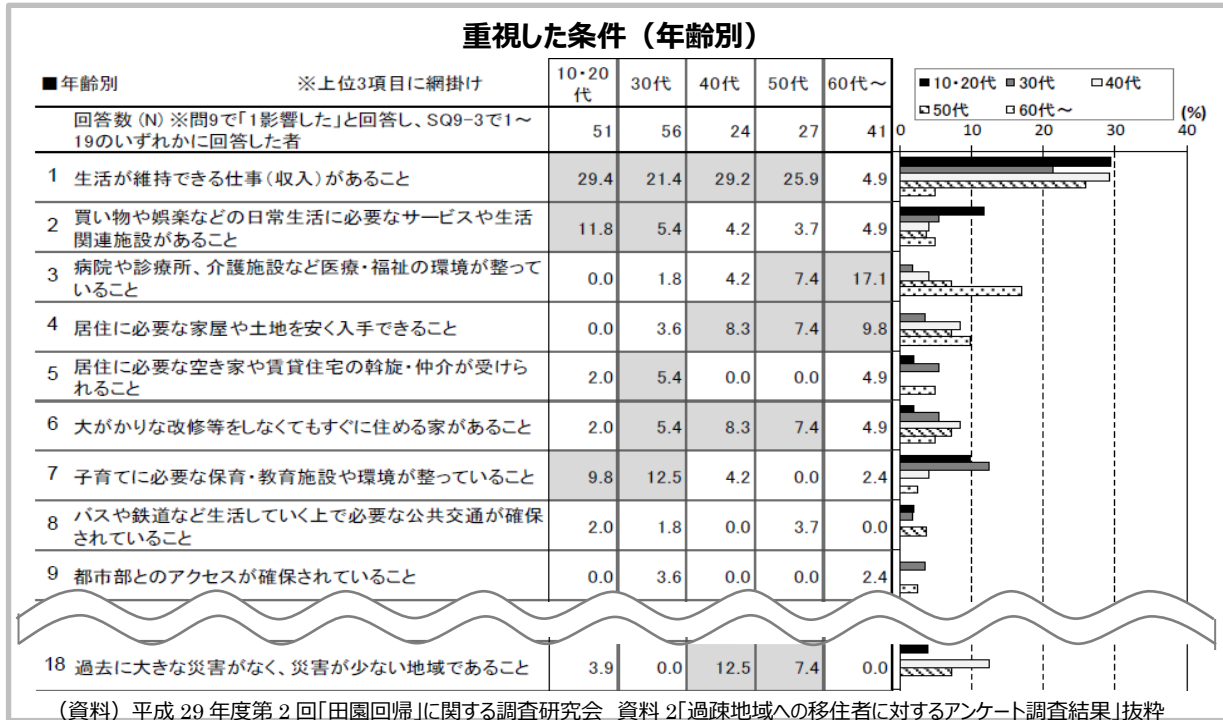
- ・多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造

安心して子育てができる環境の整備

- ・赤ちゃん訪問事業
- ・赤ちゃん相談事業
- ・育児相談事業
- ・子ども家庭総合支援拠点事業
- ・母子に関する相談及び支援事業
- ・発達障害等相談支援事業
- ・子育て・親育ち支援等講座事業
- ・0123 広場運営事業
- ・地区こども館運営事業
- ・保育園を拠点とする地域子育て支援事業

基本目標5 暮らしやすいまちをつくる

- 若者から「選ばれるまち」となるためには、「仕事」、「住まい」に加えて、「生活サービス」や「医療・福祉環境」、「交通」などの、日々の暮らしやすさや、「教育」が充実していることも必要です。
- 災害の少ない地域であることも重要視されており、安心・安全なまちづくりを進める必要があります。
- 10年後、20年後を見据え、AI・IoT等の先端技術も活用しながら、便利で安全な暮らしやすいまちづくりを進めます。



数値目標

- 茅野市の行政サービスの満足度
目標（令和6年）：50%

- 主な重要業績評価指（KPI）
- 自主防災組織防災訓練実施率
 - 区・自治会における支え合いマップ・名簿等の作成割合

■ 施策パッケージ

人と人が支え合う安全なまちをつくる

- ・区・自治会への加入促進事業
- ・住民参加型有償サービス支援事業
- ・自主防災組織活動支援事業
- ・消防団活動支援事業
- ・避難行動要支援者支援事業

暮らしやすい環境の整備・充足

- ・地域共生社会の構築に向けた包括的支援事業
- ・八ヶ岳登山道整備事業
- ・J R 茅野駅西口駅前広場周辺リニューアル事業
- ・公共交通確保維持改善事業
- ・読りむ in ちの活動支援事業
- ・読書推進事業
- ・幼保小連携教育推進事業
- ・小中一貫教育推進事業
- ・L PWAを活用した見守り事業
- ・AI・IoT 技術を活用した暮らしやすいまちづくり

◆ 横断的施策

- ・JR 茅野駅西口リニューアルによる人の流れの創造
- ・AI・IoT 技術活用による暮らしやすいまちの構築

横断的施策

5つの基本目標の達成に向けて、横断的に取り組む施策は次のとおりです。

(1) 茅野版DMO支援による新たな交流の創造

基本目標 1

基本目標 2

- 茅野市ならではの観光資源を活かした体験交流プログラムや地域との交流拠点の設置を行うことで、インバウンド観光客を始めとする新たな観光客層が茅野市を**知り、訪れる**ことを目指します。
- 地域住民が、体験交流プログラムの担い手となることで、地元住民と観光客の交流を促し、**通いたくなるまち**となることを目指します。

(2) コワーキングスペース活用による新たな雇用の創出

基本目標 2

基本目標 3

- コワーキングスペースを中心に、学生・企業・地元住民・別荘利用者など、市内外の様々な人々の交流、協働や、起業、創業、就業を促すことで、**新たな雇用の創出**を目指します。
- コワーキング、テレワークなどの新たなワークスタイルの環境を整備することで、市外の人が茅野市で働くために**通う**ことを目指します。

(3) 産学公連携「スワリカブランド」推進による新たな産業の創出

基本目標 2

基本目標 3

- 公立諏訪東京理科大学を中心として、高度なものづくり技術と最先端のIoT通信技術を融合させた、茅野発の新たな**産業の創出**を目指します。
- 大学生が地域と関わることで、茅野市に**住み続ける**ことを目指します。

(4) 多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造

基本目標 4

基本目標 2

基本目標 3

- 子どもたちの様々な興味・関心を引き出すことができ、また、力を発揮していきっかけとなる学びの場を提供することで、子どもたちが自らの豊かな生き方を茅野市で見つけ、茅野市に**住み続ける**とともに、茅野市を離れても**郷土を思い**、生きていくことを目指します。
- 個性や得意分野を活かし働くことができるような雇用を創出することで、新たな産業を生み出すとともに、茅野市の子どもが茅野市に**住み続ける**ことを目指します。

(5) JR茅野駅西口リニューアルによる人の流れの創造

基本目標 5

基本目標 1

基本目標 2

基本目標 3

- 市内のみならず諏訪地域、上伊那地域、さらには首都圏、中京圏までも含めた交通をつなぐ拠点として、また、おもてなしとホスピタリティのあふれる茅野市の玄関口としてJR茅野駅を整備し、観光客等が**訪れる**ことを目指します。

(6) AI・IoT技術活用による暮らしやすいまちの構築

基本目標 5

基本目標 1

基本目標 3

- 10年後、20年後を見据え、AIやIoTなどの先端技術を活用し、公共交通や防災といった市民生活の基盤となる環境の整備により、市民目線で、生活全般において**暮らしやすさを実感できるまちの実現**を目指します。
- 先端技術を活用したまちづくりを進め、新たな技術が地域内に持ち込まれることで、付加価値の高

い**新たな産業と雇用の創出**を目指します。

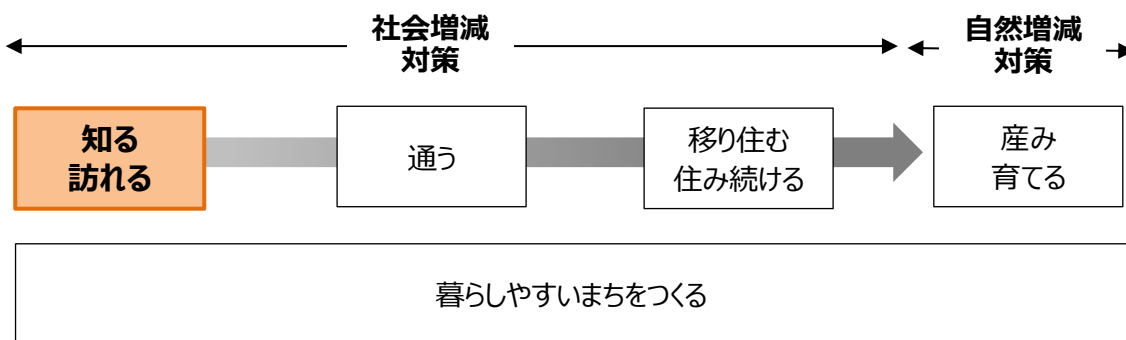
- 地域通貨、ポイント制とキャッシュレス化を組み合わせた新たな地域活性化の仕組みを構築することで、若者が茅野市を**知り、訪れ、移り住む**ことを目指します。

基本目標・横断的施策を取り入れた
若者に「選ばれるまち」のイメージ図

3 具体的施策

基本目標 1 知り、訪れたくなるまちをつくる

この目標が目指すフェーズ



基本的な方向

- 茅野市が若者に「選ばれるまち」となるためには、まず茅野市のことを知ってもらう必要があります。茅野市を多くの人を知り、来訪につなげるため、戦略的な情報発信を行うことで茅野市の認知向上につなげます。
- 茅野市を知っていただいた方が茅野市を訪れるためには、来訪者に魅力ある地域であることが必要です。観光地や観光施設等のハード面の整備や二次交通の確保を行うことで、来訪者の満足度を高めます。
- 多くの来訪を促すため、茅野版 DMO（ちの観光まちづくり推進機構）と連携し、地域資源を活かした、魅力ある観光地域づくりを行います。

数値目標

指標名	目標値（令和6年）
市内観光地延利用者数	3,367,000人

茅野市の認知向上に向けた情報発信

シティブロモーションの展開により、茅野市観光情報サイト『茅野観光 Navi』や SNS 等を戦略的に活用し、茅野市の魅力を国内外に広く発信することで、茅野市の認知向上につなげます。

また、茅野市民や茅野市に縁のある著名人に、茅野市の魅力を PR していただくことで、人と人とのつながりにより、ピンポイントに茅野市のことを知るきっかけをつくります。

併せて、諏訪圏フィルムコミッションが中心に進めている映画などの撮影や、諏訪地域でロケが行われた作品の公開に協力することで、茅野市の存在を全国的に広めます。

一方で、海外ブロッガー等のメディア招聘を行い、これまで茅野市が力を入れてきた海外からの団体旅行の誘致だけでなく、海外の個人旅行客に向けた情報発信の強化も行います。

事業の内容

- HP や SNS における情報発信
 - ・シティブロモーションの展開による茅野市の魅力発信事業
 - ・茅野市観光情報サイト・公式 SNS 運用による情報発信事業
 - ・縄文を活用した P R 事業
- 茅野市内外の方による茅野市の情報発信
 - ・縄文ふるさと応援団事業
 - ・縄文ふるさと大使事業
- フィルムコミッションの推進による情報発信
 - ・フィルムコミッション推進事業
- 海外から観光客を呼び込むためのプロモーション活動
 - ・海外プロモーション事業
 - ・メディア・旅行会社招聘事業

担当部署	観光まちづくり推進課 文化財課 地域戦略課		
	重要要素評価指標 (KPI)	現状値	数値目標 (令和 6 年)
	茅野市観光情報サイト『茅野観光 Navi』アクセス数	810,000 件	1,000,000 件
	縄文ホームページ (考古館含む) アクセス件数	402,062 件	650,000 件
	茅野市公式 SNS リーチ件数	108,864 件	587,645 件

観光の活性化に向けた環境整備

市内観光の活性化に向けては、来訪者が快適に観光施設を利用できるハード面の整備を行い、来訪者の満足度を高めることも必要です。市内の観光施設等を整備し、魅力ある観光地域づくりを進めるとともに、観光地へのアクセスの確保に向けて二次交通の対策を進めます。

事業の内容

○市内観光拠点施設等の整備

- ・蓼科湖周辺整備事業
- ・御射鹿池周辺整備事業
- ・史跡整備事業
- ・観光地廃ホテル等対策事業
- ・観光地二次交通対策事業
- ・J R 茅野駅西口駅前広場周辺リニューアル事業

担当部署	観光まちづくり推進課 文化財課 都市計画課	
重要要素評価指標（KPI）	現状値	数値目標（令和6年）
蓼科エリア観光地利用者数	1,495,100 人	1,620,000 人
尖石縄文考古館来館者数	56,953 人	65,000 人

茅野市への来訪に向けた誘客促進

茅野版 DMO（ちの観光まちづくり推進機構）と連携し、茅野市の魅力である、八ヶ岳に育まれた豊かな自然環境や、縄文、小津映画を始めとする歴史・文化など、この地域ならではの魅力ある地域資源を活かした旅行商品を造成することで、誘客につなげます。

また、観光客にとっては、行政の枠組みは関係ありません。諏訪圏域、ビーナスライン、白樺湖といった共通するテーマ性やストーリー性を持った観光地について、行政の枠を超えて広域に連携、協力し、一元的な誘客に取り組みます。

一方、学習旅行の誘致により、将来、その子ども達が大人になってから再び茅野市に来訪することを目指し、将来的な来訪者の獲得にもつなげます。

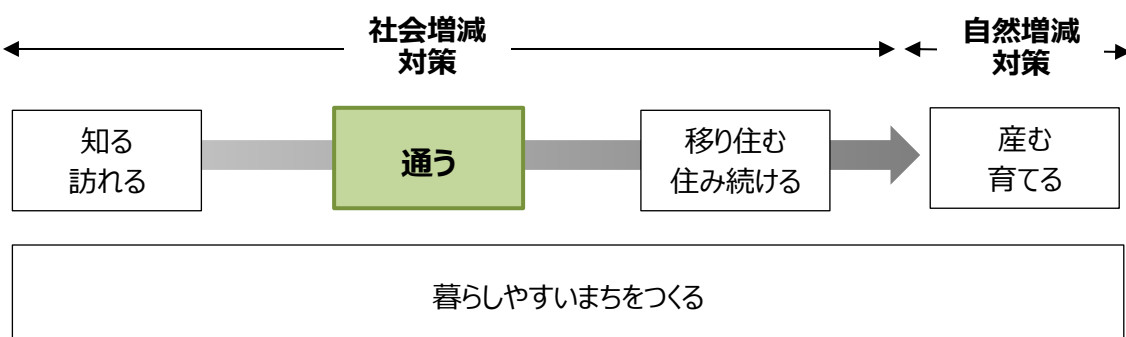
事業の内容

- 地域資源を活かした誘客の促進
 - ・地域資源を活かした旅行商品、拠点整備事業
 - ・縄文ガイドブック・ツアー事業
 - ・小津安二郎記念・蓼科高原映画祭支援事業
- 学習旅行の誘致による誘客の促進
 - ・学習協サマーキャンプ・スノーキャンプ実施事業
- 広域観光連携の推進
 - ・諏訪地方観光連盟との連携事業
 - ・ビーナスライン沿線市町との連携事業
 - ・白樺湖活性化協議会との連携事業

担当部署	観光まちづくり推進課 文化財課	
重要要素評価指標（KPI）	現状値	数値目標（令和6年）
市内観光消費額	1,046,730 万円	1,067,600 万円

基本目標 2 通いたくなるまちをつくる

この目標が目指すフェーズ



基本的な方向

- 来訪者が茅野市に通うためには、その方が地域や人との関わりを持ち、そのつながりが目的となることで、より地域に関わりを持ちたいという想いを持つ必要があります。
- 暮らすような旅を通じた、地域住民と来訪者の交流や、コワーキングスペース利用者による交流といった新たなつながりを生み出します。
- 環境整備により別荘地の魅力を向上することで、新たな別荘所有者の獲得につなげ、別荘を通じたつながりを生み出します。
- 茅野市出身者がいずれ茅野市に帰ってきたいと思えるように、郷土愛の醸成や、理科大生の定着に向けた創業等の支援を行い、茅野市につながり続けることを目指します。

数値目標

指標名	目標値（令和6年）
「将来は茅野市で暮らしたい」と思う15歳～18歳の割合	80%

茅野市とのつながりを創出する交流拠点の整備

地域の人と関わりながら茅野市の自然環境や歴史・文化を体験できる、まさに暮らすように旅ができる旅行商品の造成を行うとともに、地域の人と関わることができる観光拠点の整備を進め、観光を通じた、地域住民と来訪者との交流を生み出します。

一方、ICT の進歩により、テレワークやリモートワークなど、場所に縛られない新しい働き方を行う人たちが増えてきています。コワーキングスペース『ワークラボ八ヶ岳』という拠点の設置により第 2 の働く場を提供することで、茅野市とつながる方を増やすとともに、コワーキングスペースを利用する方同士の新たな人と人との交流を生み出します。

事業の内容

○交流拠点の整備

- ・地域資源を活かした旅行商品、拠点整備事業
- ・コワーキングスペース活用事業

担当部署

観光まちづくり推進課
商工課

重要要素評価指標 (KPI)	現状値	数値目標 (令和 6 年)
コワーキングスペース売上額	7,476 千円	8,200 千円

別荘地の利用促進に向けた環境整備

茅野市に通うにあたっては、二つ目の生活の拠点を持つことも大きなきっかけとなります。茅野市は、その豊かな自然環境により、古くから別荘地としてにぎわってきました。別荘地周辺の環境整備を進めるとともに、別荘開発事業者等と連携し別荘地の方も楽しめるプログラム等を提供することで、別荘地の魅力をさらに高め、選ばれる別荘地となることを目指します。

事業の内容

○別荘地の魅力向上による別荘の利用促進

- ・蓼科湖周辺下水道整備事業
- ・別荘開発事業者等との連携推進事業

担当部署

観光まちづくり推進課
水道課

重要要素評価指標 (KPI)

現状値

数値目標 (令和 6 年)

別荘地の水道使用量

262,925 立方メートル

285,000 立方メートル

地域への愛着や誇りの醸成

茅野市に若者が増えるためには、高校・大学等への進学や、就職で茅野市を離れてもいずれ茅野市に帰ってきてくれることも必要です。子ども達がまちづくりに主体的に参加する機会の提供や、中高生の居場所となる施設の設置により、地域を知り、地域の人とつながることを通して、地域への愛着や誇りを醸成し、若者のUターンにつなげます。

一方で、公立諏訪東京理科大学には市外からの生徒が多く在籍しています。学生が学び、暮らすこの地域で、キャリアデザイン力を身につけるとともに、地域への愛着を醸成し、最終的に起業・創業・就業のいずれかの形で市内に定着するよう支援を行います。

事業の内容

- 郷土愛の醸成による茅野市出身者のUターン促進
 - ・こども未来プロジェクト推進事業
 - ・CHUKO らんどチノチノ運営事業
 - ・生きる力を育む特色ある学校づくり事業
- 公立諏訪理科大学大学学生の定着促進
 - ・インターンシップ等促進事業
 - ・産学公連携「スワリカブランド」創造事業

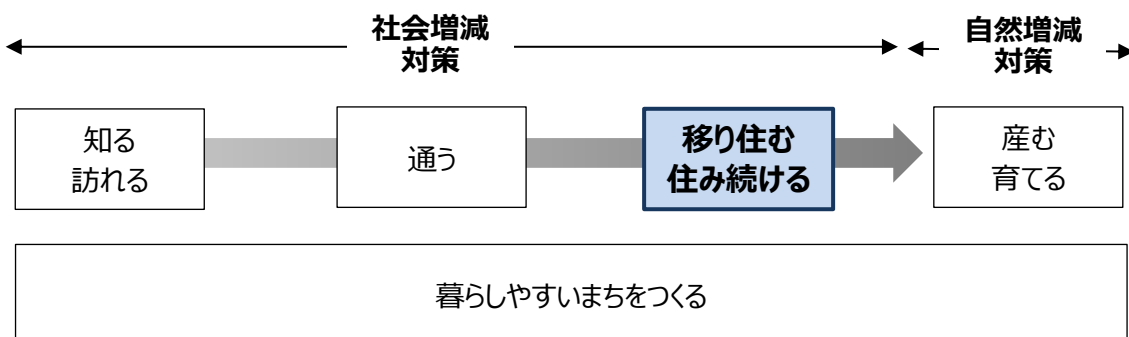
担当部署

学校教育課
こども課
商工課

重要要素評価指標（KPI）	現状値	数値目標（令和6年）
CHUKO らんどチノチノ利用者数	13,909 人	17,000 人
公立諏訪東京理科大学卒業生の市内創業・就業者数	10 人	20 人

基本目標 3 移り住みたい、住み続けたいまちをつくる

この目標が目指すフェーズ



基本的な方向

- 若者に「選ばれるまち」となり、移住・定住を促すためには、その人が働きたいと思えるような魅力ある「仕事」や、茅野市の「情報」、そして茅野市で暮らすための「住まい」が必要です。
- 企業の設備投資、研究開発や、創業支援を通じて魅力ある雇用を生み出すことで、若者が仕事に対し多くの選択肢を持てるような環境をつくるとともに、他の機関とも連携し、付加価値の高い雇用の創出や産業の新陳代謝を促します。
- 子育て中の女性や障害者、就農希望者等、誰もが就労しやすい環境をつくるとともに、労働環境の整備を支援することで、誰もが働きやすい環境の整備を進めます。
- 他団体とも連携し、移住・定住相談窓口の設置や一元的な情報発信を行うことで、若者に移住候補地として茅野市を選んでいただくとともに、移住者や若者の「住まい」の確保に対し支援を行います。

数値目標

指標名	目標値（令和6年）
社会増減数（転入者数－転出者数）	▲548人

魅力ある雇用・産業の創出

市内中小企業者等が行う工場新設・増設等の設備投資や、新技術・新製品の研究開発、茅野市の地域資源を活かした創造的な事業活動の支援を通じて、既存企業の新たな雇用の創出や、若者にとって魅力ある職場づくりを促します。

一方で、意欲ある創業希望者に対するコワーキングスペース等ワンストップ型の支援や、空き店舗等を活用して新たに出店する事業者に対する支援を通じて、新規事業者による新たな雇用を生み出します。

また、茅野・産業振興プラザの機能強化による産業間連携を促すとともに、公立諏訪東京理科大学と連携し、最先端の IoT 通信技術の活用を通じた産学公連携体制をブランド化することで、付加価値の高い雇用の創出と産業の新陳代謝を促します。

事業の内容

- 既存企業の支援による新たな雇用の創出
 - ・ 中小企業振興補助制度事業
 - ・ 新技術・新製品研究開発支援事業
 - ・ 新商品開発支援事業
 - ・ 製造業等労務環境改善等設備促進事業
- 新規事業者による新たな雇用の創出
 - ・ コワーキングスペース活用事業
 - ・ 創業スクール事業
 - ・ 空き店舗等活用事業
- 付加価値の高い雇用創出と産業の新陳代謝の促進
 - ・ 茅野・産業振興プラザ支援事業
 - ・ 産学公連携「スワリカブランド」創造事業
 - ・ モノづくり集積地 SUWA のヒトづくりプロジェクト
 - ・ N P O 諏訪圏ものづくり推進機構支援事業

担当部署	商工課	
重要要素評価指標 (KPI)	現状値	数値目標 (令和 6 年)
設備投資促進支援件数	23 件	24 件
新規創業者数	19 人 (5 年平均)	20 人
市内製造業従業者数	8,932 人	8,932 人

就労支援と労働環境の整備

県外からの移住就業者及び創業者に対し支援を行うことで市外からの就労を促すとともに、子育て中の女性や障害者等を雇用した企業に対して支援を行い、子育て中の女性等の多様な人材が就労しやすい環境をつくります。

また、茅野市独自の制度である品目別アドバイザー制度を活用し、就農に関する具体的なアドバイスや、新規就農者として活躍している方々の状況を伝えることで、新規就農希望者が就農しやすい環境をつくります。

一方で、市内製造業等の中小企業者が行う労働環境の整備を支援することで、誰もが働きやすい環境の整備を促します。

併せて、ファミリー・サポートによる相互援助の子育て支援や、安心して子どもを預けられる学童クラブ、保育所の運営等、子育てをしながら働くことができる環境を整えます。

事業の内容

- 多様な人材が就労しやすい環境整備
 - ・就業・創業移住支援事業
 - ・雇用促進事業
 - ・インターンシップ等促進事業
 - ・就農者支援事業
 - ・農作物品目別アドバイザー制度推進事業
- 誰もが働きやすい労働環境整備
 - ・製造業等労務環境改善等設備促進事業
- 子育てをしながら働くことのできる環境整備
 - ・ファミリー・サポート・センター事業
 - ・保育所運営事業
 - ・学童クラブ運営事業

担当部署	商工課 農林課 こども課 学校教育課 幼児教育課
------	--------------------------------------

重要要素評価指標 (KPI)	現状値	数値目標 (令和 6 年)
市内事業所就業者数	25,435 人	25,435 人
新規就農者数	18 人	20 人 (5 年累計)
待機児童数	-	0 人

移住・定住情報の発信や住まいの支援

田舎暮らし楽園信州ちの協議会や諏訪圏移住相談センターによる、移住・定住に関するワンストップ窓口の設置・運営や、HP・SNS を活用した移住・定住の一元的な情報発信、イベントの開催等を支援し、若者の移住候補地として選ばれる茅野市を目指します。

茅野市での生活を安価に体験できる移住体験住宅の提供を行うとともに、サンコーポラス旭ヶ丘への入居や住宅団地に住宅を新築する新婚世帯・子育て世帯への支援や、移住者への住宅リフォームの補助を行うことで、若者のフェーズに合った「住まい」の確保を支援し、移住・定住の促進につなげます。

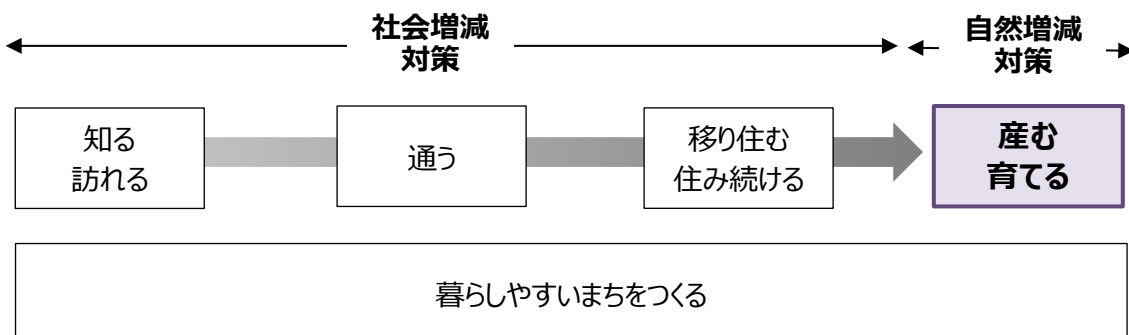
事業の内容

- 移住・定住に関する窓口の設置や情報発信
 - ・楽園信州ちの協議会の活動支援を通じた情報発信事業
 - ・諏訪圏移住相談センター支援事業
 - ・田舎暮らし楽園信州ちの協議会ツアー事業
- 移住者に向けた住まい等の支援
 - ・田舎暮らし楽園信州ちの協議会移住体験住宅事業
 - ・サンコーポラス旭ヶ丘の入居促進・活用事業
 - ・住宅団地販売促進事業
 - ・住宅リフォーム促進事業

担当部署	観光まちづくり推進課 都市計画課	
重要要素評価指標（KPI）	現状値	数値目標（令和6年）
楽園信州ちの協議会を通じた移住・定住件数	7件	10件
住宅政策に係る支援を受けた移住・定住世帯数	－	100世帯

基本目標 4 安心して出産・子育てができるまちをつくる

この目標が目指すフェーズ



基本的な方向

- 若者に「選ばれるまち」となるためには、夫婦が安心して出産、子育てに臨み、子育てのしやすいまちであることが必要です。
- 出会いの創出による婚活支援を行うとともに、妊娠・出産に向けた母子の健康に関わる事業の充実、経済的な支援によって、結婚・妊娠・出産までを切れ目なく支援します。
- 出産、子育てに関して気軽に相談できる体制の整備を行うとともに、親と親同士の交流のきっかけをつくることで共に子育てに励む仲間づくりを促し、出産、子育ての不安を軽減します。
- 子育て世帯への経済的支援を行うことで、子育ての不安を取り除き、誰もが希望する子どもを持てる環境をつくれます。

数値目標

指標名	目標値（令和6年）
合計特殊出生率	1.64

結婚・妊娠・出産の切れ目ない支援

あえて顔の見えない交換日記を活用して市内男性と市外の女性を結びつける、新たな形の婚活支援を実施します。

不妊症等に悩む夫婦に対する治療費の助成、出産までの身体の変化や今後の支援等について事前に知ることができるパパママ講座、出産後の育児不安への対応や育児方法の習得のために、産科への宿泊や相談ができる産後ケアの環境を整え、結婚から妊娠、出産、産後まで切れ目なく支援を行うことで、安心して子どもを産み、育てられる環境をつくります。

事業の内容

○結婚・妊娠・出産支援

- ・出会いの創出事業
- ・不妊及び不育症治療助成事業
- ・パパママ講座・赤ちゃん相談事業
- ・マタニティ相談事業
- ・妊婦一般健康診査事業
- ・産婦健康診査事業
- ・産後ケア事業

担当部署

地域戦略課
健康づくり推進課

重要要素評価指標（KPI）

現状値

数値目標（令和6年）

人口千人当たりの婚姻件数

5.8 件

7 件

安心して子育てができる環境の整備

赤ちゃん訪問、乳幼児健診、赤ちゃん相談、地区での育児相談等、身近な場で相談支援が受けられる環境を整えています。そして、子育てに関する総合的な窓口である子ども家庭総合支援拠点『育ちあいちの』等、出産、子育てに関して気軽に相談できる体制整備を行うことで、出産、子育ての不安を軽減し、産みたい、育てたいという意識の高揚を図ります。

子育て支援講座や、N P（ノーバディーズ・パーフェクト）プログラム講座等の実施により、両親が、子育ての知識、子どもとの関わり方を学ぶとともに、0123 広場や地区こども館といった、親子がいつでも自由に集える場、親子のふれあいの場を整備することで、親と親同士の交流のきっかけをつくり、共に子育てに励む仲間づくりを促します。

事業の内容

- 相談・訪問体制の充実
 - ・赤ちゃん訪問事業
 - ・赤ちゃん相談事業
 - ・育児相談事業
 - ・子ども家庭総合支援拠点事業
 - ・母子に関する相談及び支援事業
 - ・発達障害等相談支援事業
- 子育ての仲間づくりの促進
 - ・子育て・親育ち支援等講座事業
 - ・0123 広場運営事業
 - ・地区こども館運営事業
 - ・保育園を拠点とする地域子育て支援事業

担当部署	健康づくり推進課 保健福祉サービスセンター こども課 幼児教育課		
重要要素評価指標（KPI）		現状値	数値目標（令和6年）
相談解決の割合		100%	100%

子育て世帯への経済的支援

多子世帯の保育料や、私立幼稚園の授業料、子どもの医療費等に対し支援を行うことで、子育て世帯の経済的負担を軽減し、誰もが希望する子どもを持てる環境をつくれます。

事業の内容

○保育料・医療費等子育て世帯への経済的支援

- ・多子世帯保育料軽減事業
- ・私立幼稚園支援事業
- ・遠距離通学児童・生徒通学支援事業
- ・教育資金利子補給事業
- ・医療費助成事業

担当部署

幼児教育課
学校教育課
地域戦略課
高齢者・保険課

重要要素評価指標 (KPI)

現状値

数値目標 (令和6年)

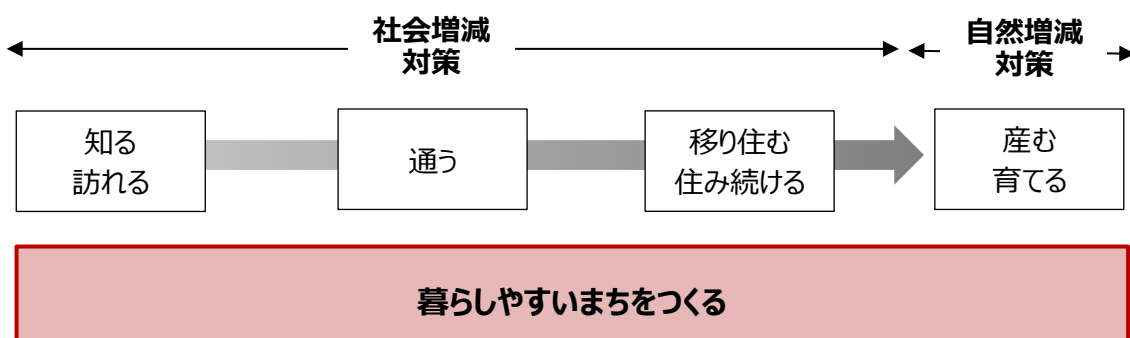
人口千人当たりの出生人数

6.8人

9人

基本目標 5 暮らしやすいまちをつくる

この目標が目指すフェーズ



基本的な方向

- 若者に「選ばれるまち」となるためには、「生活サービス」や、「医療・福祉環境」、都市部とのアクセスも含めた「交通」、保育・教育などの「子育て環境」等が充実し、便利で暮らしやすいまちであることが必要です。また、近年、大きな震災や大型の台風による被害の発生もあり、災害に強い地域であることが求められています。
- 地域コミュニティ活動の充実や、地域における防災機能の充実により、住民の支え合いによる安心・安全なまちづくりを進めます。
- 医療・福祉の体制整備や、八ヶ岳の環境整備、交通の確保、防災減災の強化、特色のある教育など、10年後、20年後を見据え、AI・IoT等の先端技術も活用しながら、自然と共生した、便利で安全な暮らしやすいまちづくりを進めます。

数値目標

指標名	目標値（令和6年）
茅野市の行政サービスの満足度	50%

人と人が支え合えう安全なまちをつくる

区・自治会への加入や、病院、買い物等への住民参加型福祉サービスに対する支援により、地域コミュニティ活動の充実による、人と人がつながる支え合いのまちづくりを進めます。

また、地域における防災活動の要となる自主防災組織の、防災訓練等の活動支援や、消防団の活動支援を行うとともに、区・自治会支え合いマップ・名簿作成を支援することで、地域における防災機能を充実による支え合いのまちづくりを進めます。

事業の内容

- 地域コミュニティ活動の充実
 - ・区・自治会への加入促進事業
 - ・住民参加型有償サービス支援事業
- 防災機能の充実
 - ・自主防災組織活動支援事業
 - ・消防団活動支援事業
 - ・避難行動要支援者支援事業

担当部署	パートナーシップのまちづくり推進課 防災課 消防課 地域福祉課	
重要要素評価指標（KPI）	現状値	数値目標（令和6年）
自主防災組織防災訓練実施率	97.9%	100%
区・自治会における支え合いマップ・名簿等の作成割合	79.3%	100%

暮らしやすい環境の整備・充足

諏訪中央病院、保健福祉サービスセンター、行政が連携した包括的な「医療・福祉」の支援・サービス提供体制の構築、その人に合った適切な交通手段の確保や、茅野市の玄関口である J R 茅野駅西口のリニューアルにともなう都市部とのアクセスを含めた交通結節機能の整備等の「交通」の充実、茅野市の観光・農業・縄文など茅野市の文化を育んできた八ヶ岳の、登山道を始めとする「自然」環境整備。読書活動を始めとする茅野市独自の「子育て」環境の整備。

そして、AI・IoT 等の先端技術を活用した、登山者や河川の見守りによる「安全」の確保や、キャッシュレス等の導入、データインフラの整備等、茅野市の「暮らしやすさ」を支える環境を、これからの未来を見据えながら整備・充足することで、若者に選ばれるまちづくりを行います。

事業の内容

○暮らしを支える基礎となる環境の整備・充足

- ・地域共生社会の構築に向けた包括的支援事業
- ・八ヶ岳登山道整備事業
- ・ J R 茅野駅西口駅前広場周辺リニューアル事業
- ・公共交通確保維持改善事業
- ・読り-む in ちの活動支援事業
- ・読書推進事業
- ・幼保小連携教育推進事業
- ・小中一貫教育推進事業
- ・ L P W A を活用した見守り事業
- ・ AI ・ IoT 技術を活用した暮らしやすいまちづくり

担当部署

観光まちづくり推進課
都市計画課
生涯学習課
幼児教育課
学校教育課
地域戦略課